

泉大津市学校施設長寿命化計画

泉大津市教育委員会

令和5年1月改訂

1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

計画の背景と目的

本市の小中学校は、築40年以上を経過する施設が多く、老朽化が進行し、対策が必要となっています。

今後、学校施設が大規模改修や更新期を迎えるため、計画的に施設の長寿命化を図ることによりトータルコストの縮減と平準化を進める必要があります。

本市では、「泉大津市公共施設適正配置基本計画」（平成29年6月）により、限られた財源の中で施設を安全安心に利用できるよう、また、適正な規模や配置等により住民サービスの維持・向上を図れるよう取り組みを進めているところです。

泉大津市学校施設長寿命化計画（以下、「本計画」という。）では、この泉大津市公共施設適正配置基本計画を踏まえ、今後の施設整備に長寿命化という考え方を取り入れ、施設機能を維持しながらこれまで以上に長く使い続けることで、財政負担の軽減と平準化を図ることを目的とします。

計画の位置付け

本計画は、泉大津市公共施設適正配置基本計画を上位計画とし、学校施設を対象にした整備計画を定めます。

計画期間

本計画の期間は、令和4年度から令和21年度までの18年間とします。

なお、社会情勢等、必要に応じて見直すものとします。

対象施設

学校	
小学校	8校
中学校	3校

2 学校施設の目指すべき姿

(1) 学びを支える教育環境の充実

①学校施設の改修の推進

課題・方針

小中学校は、子ども達が一日の多くを過ごす学習・生活の場であり、また災害時には避難所となる役割を果たす重要な施設です。子どもの安全な学習環境を確保するために、小中学校の耐震補強については優先的に実施し、終了したことから、今後は老朽化校舎の改築に取り組みます。また、環境への配慮やユニバーサルデザインの視点、多様化する教育ニーズへの対応、避難所としての機能強化を果たせるよう整備を進めます。

対策

- ・安全安心で快適な学習環境を提供するため、老朽化校舎の計画的な改築・改修に取り組みます。
- ・多様化する教育内容や方法に対応するため、教育環境の充実を図ります。
- ・環境教育の一環として、照明のLED化など、環境に配慮した施設整備を推進します。
- ・ユニバーサルデザインを念頭に、バリアフリー化を推進します。
- ・非構造部材の改修など、避難所としての機能強化に努めます。

②教育関連施設配置の適正化

課題・方針

本市には多くの教育関連施設がありますが、老朽化の進行や、機能的に役割の終了したもの、利用ニーズに変化が生じているものなどがあり、再編が求められています。学校は地域コミュニティの核となる場であり、また、災害対応などでも果たす役割は大きいことから、学校を中心として「泉大津市公共施設適正配置基本方針」（平成26年12月）に基づき教育関連施設の再編整備を進めます。

対策

- ・学校施設の改築・改修にあわせて、教育施設の複合化・多機能化を推進します。

3 学校施設の実態

(1) 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

①対象施設一覧

対象施設は、小学校 8 校・中学校 3 校です。

小学校全体の延床面積は 56,382 m²、中学校全体の延床面積は 25,452 m²、合計で 81,834 m²となります。

(令和2年10月1日)

名称	住所	延床面積	児童生徒数(人)		学級数(学級)		
			通常学級 在籍者数	特別 支援	通常学級	特別支援	
小学校	戎小学校	河原町 3-7	8,255	333	49	12	8
	旭小学校	昭和町 2-27	8,029	466	31	16	7
	穴師小学校	我孫子 1-12-10	7,174	441	51	14	7
	上條小学校	東助松町 3-13-1	6,762	446	32	16	6
	浜小学校	小松町 5-6	6,280	262	47	12	7
	条東小学校	千原町 2-12-1	6,907	365	33	12	6
	条南小学校	宮町 9-1	7,200	520	58	18	10
	楠小学校	我孫子 2-4-7	5,775	460	43	15	7
小学校 計		56,382	3,293	344	115	58	
中学校	東陽中学校	池浦町 4-4-1	9,422	629	52	17	7
	誠風中学校	池浦町 4-1-1	8,197	680	51	18	8
	小津中学校	助松町 2-13-1	7,833	440	34	12	5
中学校 計		25,452	1,749	137	47	20	
小中学校 計		81,834	5,042	481	162	78	

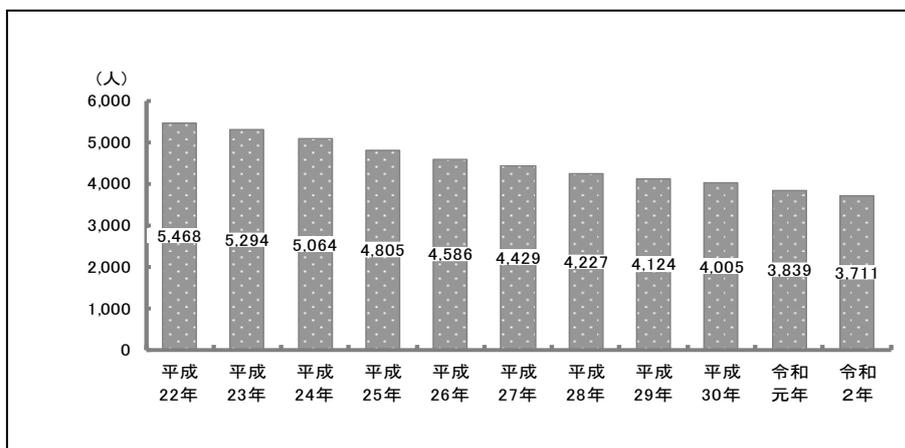
※延床面積は小数点以下は切り上げ

②児童生徒数の変化

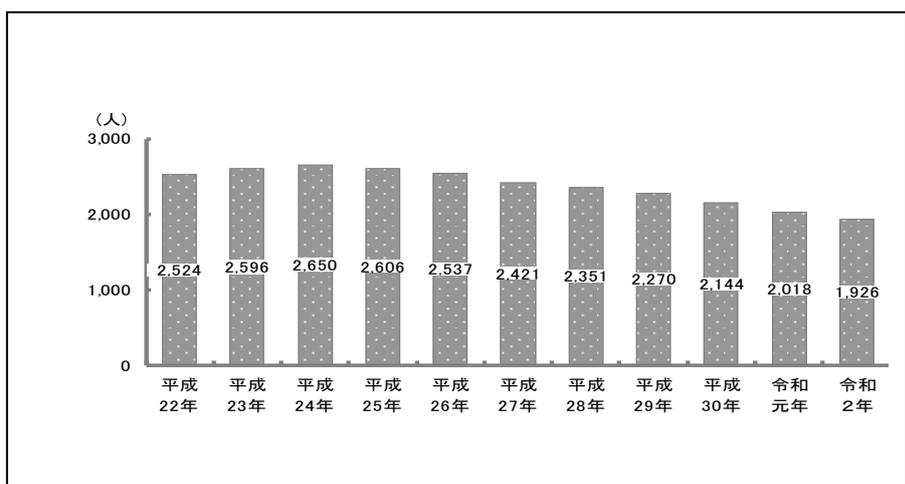
小学校の児童数は、平成19年の5,724人を境に減少が続いています。令和2年は児童数が3,711人でピーク時の約65%になっています。

中学校の生徒数は、平成24年の2,650人まで上昇傾向でしたが、平成25年以降は減少が続いています。令和2年は生徒数が1,926人でピーク時の約73%になっています。

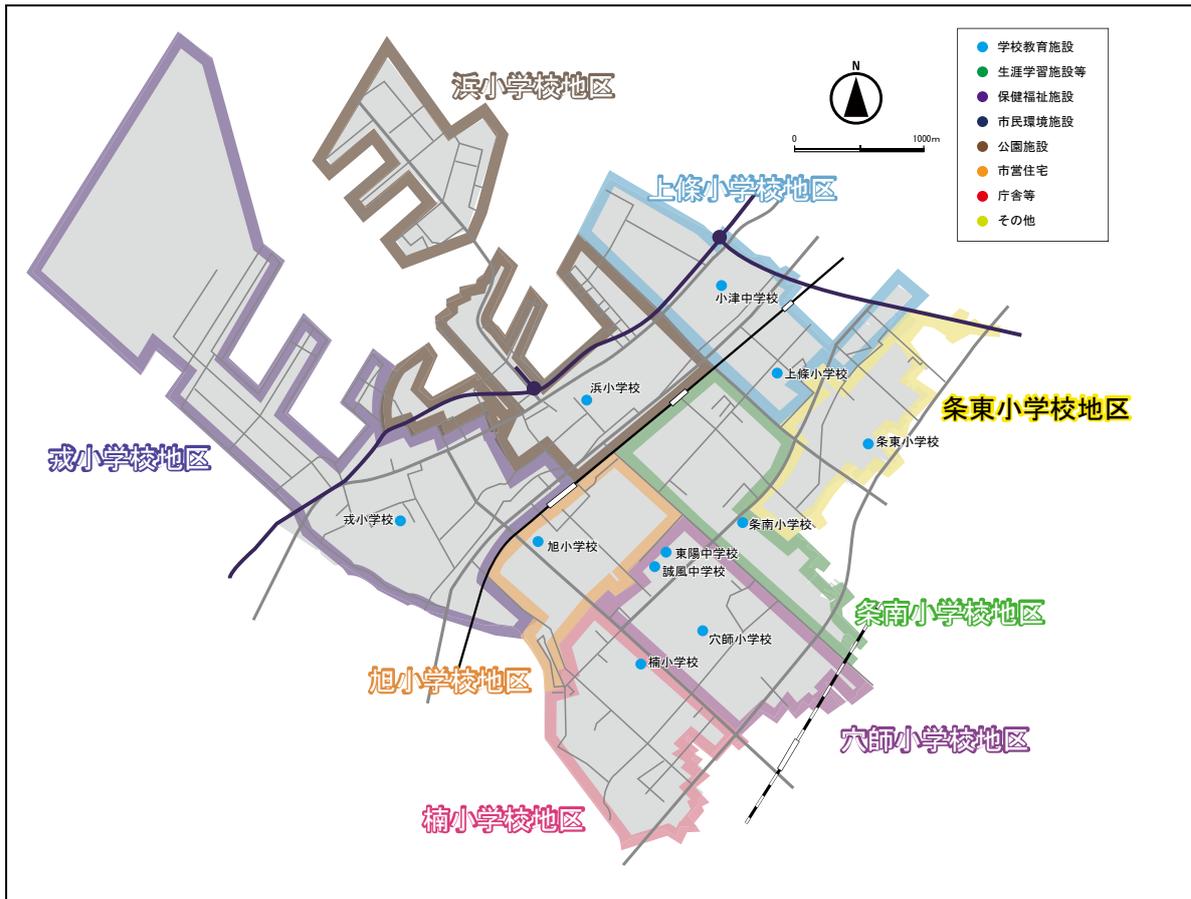
市立小学校の児童数推移 出所：泉大津市統計書



市立中学校の生徒数推移 出所：泉大津市統計書



③学校の配置状況



④施設関連経費の推移

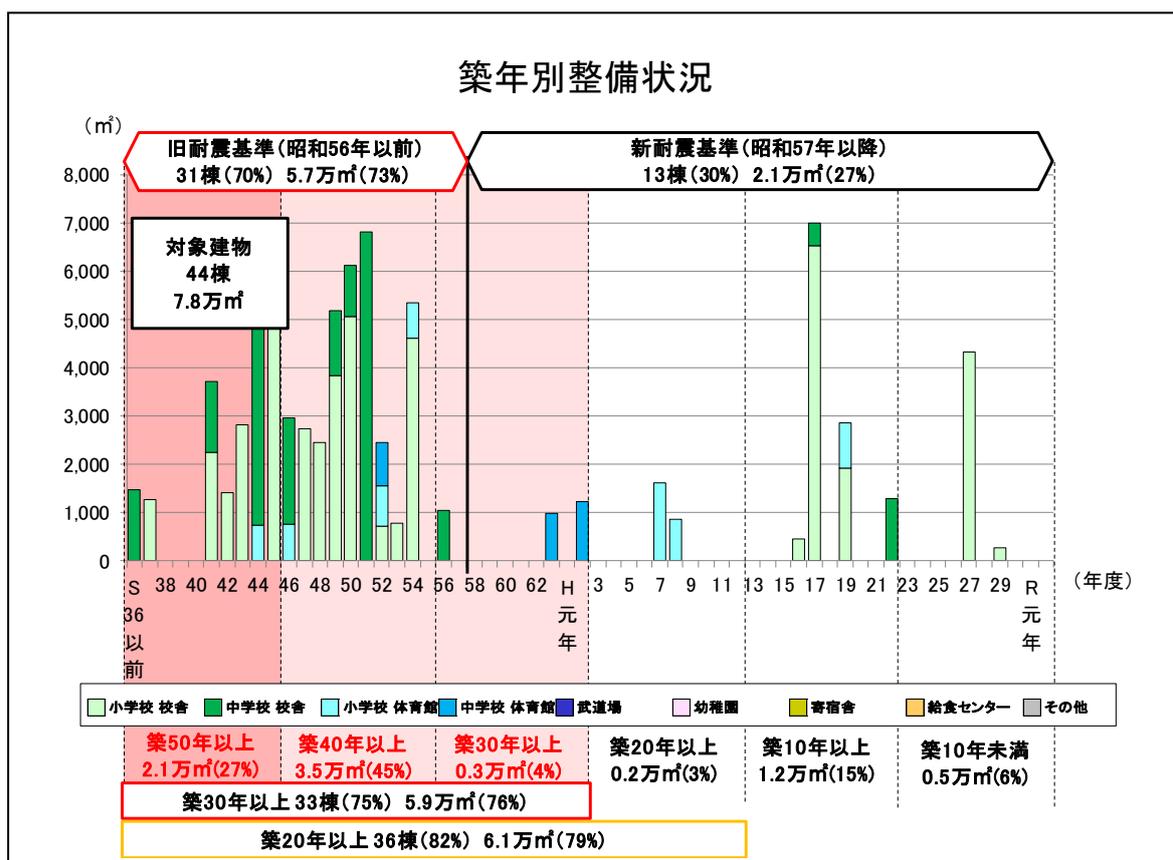
平成27年度から平成31年度の5年間の施設関連経費は、年間約1.6億円から約10億円で、5年間の合計は約25億円になり年間の平均は約5億円です。

(単位：千円)

	H27	H28	H29	H30	H31	合計
施設整備費	737,533	911,267	70,786	58,151	35,455	1,813,192
その他施設整備費	0	0	3,279	2,009	2,019	7,307
維持修繕費	9,118	9,008	6,322	7,256	4,422	36,126
光熱水費・委託費	133,008	126,796	125,061	118,968	117,759	621,592
施設関連経費合計	879,659	1,047,071	205,448	186,384	159,655	2,478,217

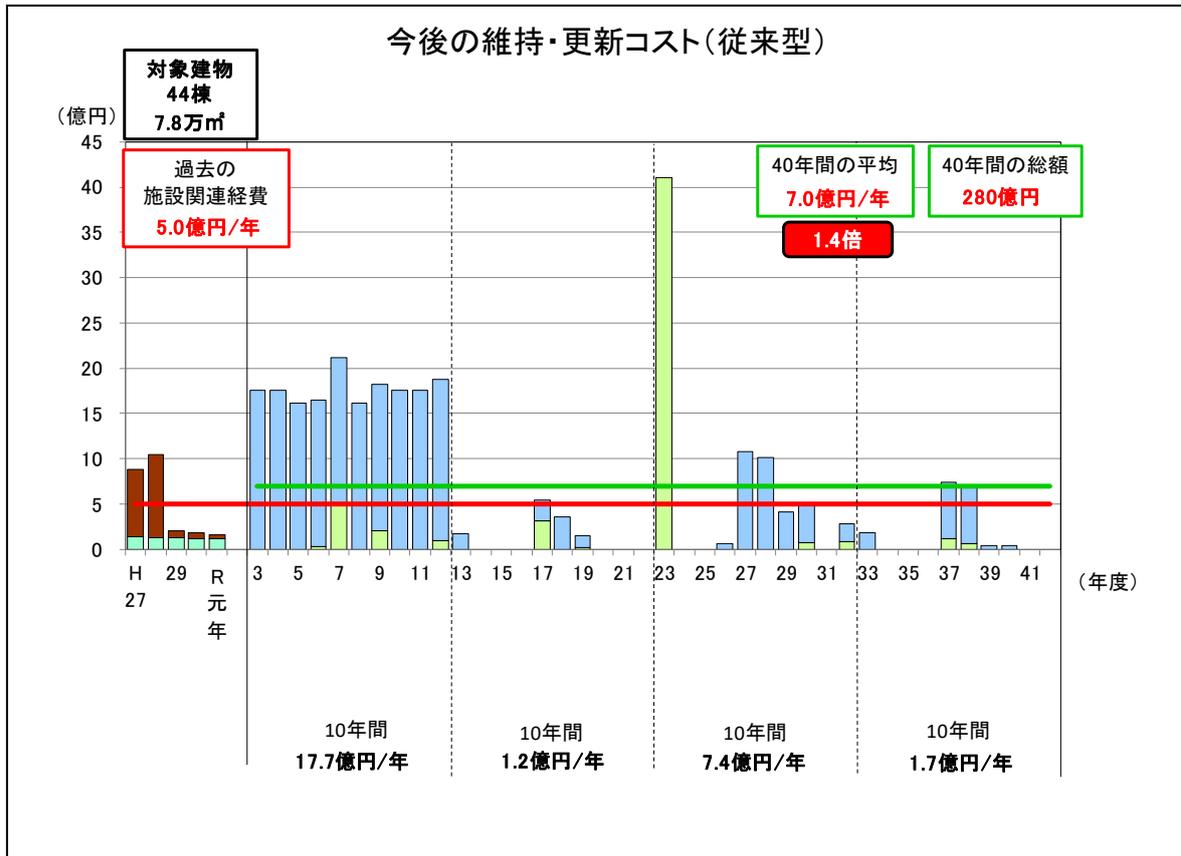
⑤学校施設の保有量

計画対象施設の小中学校は築30年以上の建物が5.9万㎡(76%)、市の公共施設全体で築30年以上の建物が約65%であり、小中学校の老朽化は特に進んでいます。



⑥今後の維持更新コスト（従来型）

40年間で建替える従来の修繕改修を今後も続けた場合、今後40年間のコストは280億円（7億円/年）と見込まれます。これは、直近5年間の投資的経費（約5億円/年）の1.4倍以上であり、建替中心の整備をすることは不可能と言え、対応策を検討する必要があります。



(2) 学校施設の老朽化状況の実態

①構造躯体以外の劣化状況等の評価

今後の施設管理を考える上で施設の状態を整理します。劣化状況調査票を用いて構造躯体以外の劣化状況を把握し、A、B、C、Dの4段階で評価します。

(評価基準は「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」参照)

(単位：%)

	A	B	C	D	合計
外壁	4.5	36.4	38.6	20.5	100
屋根・屋上	9.1	27.3	45.4	18.2	100

A：概ね良好

B：部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）

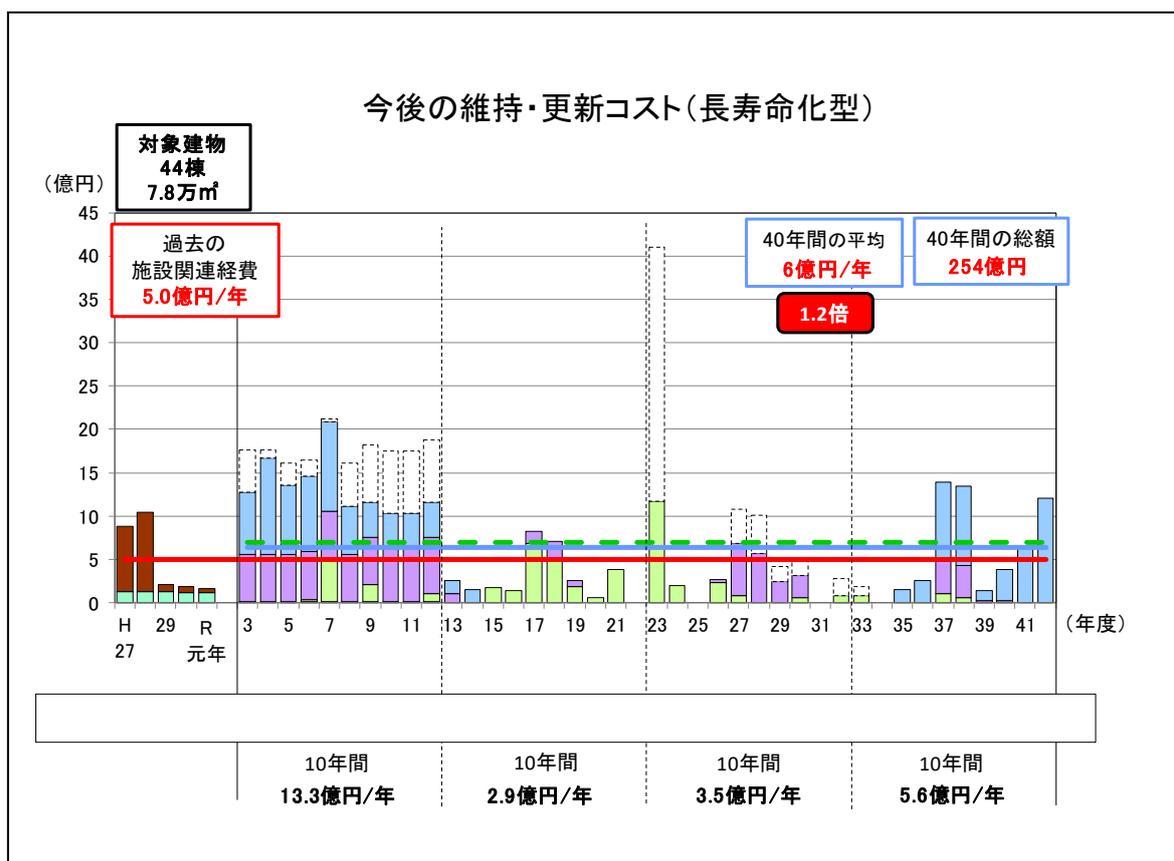
C：広範囲に劣化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）

D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり。躯体の耐久性に影響を与えている。設備が故障し施設運営に支障を与えている）等

②今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

建替中心から改修による長寿命化に切り替えていくためには、計画的に機能向上と機能回復に向けた修繕・改修を建物全体でまとめて実施する必要があります。

建物を長寿命化した場合、今後40年間の維持・更新コストは総額254億円（6億円/年）となり、従来の建替中心の場合の280億円（7億円/年）より総額26億円（6,500万円/年）、約10%の縮減となります。ただし、投資的経費（約5億円/年）に対してまだ、1.2倍のコストがかかるため、長寿命化だけでは今後の財政運営に大きな負担が見込まれます。



4 学校施設整備の基本的な方針等

(1) 学校施設の規模・配置計画等の方針

① 学校施設の長寿命化計画の基本方針

公共施設等総合管理計画（平成 28 年 4 月）の基本方針

基本方針 1：公共施設の建替の際は、施設の複合化・多機能化を進める。（施設の複合化・多機能化）

基本方針 2：施設の長寿命化や適切な維持保全により、公共施設にかかるコストの圧縮を図る。（コストの圧縮）

基本方針 3：民間事業者や市民と連携し、公共施設サービスの質の向上を図る。（サービスの維持・向上）

基本方針 4：将来推計人口をもとに、公共施設の総量を圧縮する。（総量の圧縮）

基本方針 5：公共施設適正配置に向けた推進体制の構築を目指す。（共通理解と体制の構築）

公共施設等総合管理計画の施設類型別方針【学校】

小中学校の義務教育施設は、本市の将来を担う子どもたちの教育機関であるとともに、地域の防災的観点からも重要な施設であるため「施設機能を維持する施設」とします。

一方で、小中学校の義務教育施設は、将来的に少子化が進むことも予測されることから、将来的には余剰スペースの活用による他施設との複合化・多機能化を図り、地域の拠点施設として再生することを検討します。



学校施設の長寿命化計画の基本方針

小中学校は、機能の維持が必要な施設であるため、築年数に応じた維持管理を進めます。

長寿命化対策として実施する大規模改修の時期については、築 40 年を一定の目途とし、築年数に応じて以下の 2 つの方向性としています。

築 40 年未満：旭小学校・浜小学校・条東小学校・条南小学校・楠小学校・戎小学校、小津中学校

築 40 年を経過していない学校については、築 40 年を目途に大規模改修を行うことにより、およそ築 80 年まで使用します。なお、築 20 年を経過していない戎小学校及び平成 28 年度に建替事業が完了した旭小学校については、築 20 年を目途に改修を行います。

築 40 年以上：穴師小学校・上條小学校、東陽中学校・誠風中学校

既に築 40 年以上経過し、大規模改修の実施時期を逸している学校については、築 60 年を目途に建替を検討します。

建替の方向性を示している学校についても、建物の劣化状況等により、更なる長寿命化が可能な場合には、あらためて建替の時期を検討します。また、これから予想される少子化に伴い、児童数等の将来推計を踏まえた減築等により総量の縮減を図ります。

建替や大規模改修の際には、特別教室（図書室、音楽室など）の多機能化（地域開放）の

推進にあたり、各学校・校区の取組状況や敷地制約等に応じた整備を行います。

一時的な対処として設置されているプレハブ校舎については、児童数等の減少に伴う教室の配置見直しにより廃止します。

②学校施設の規模・配置計画等の方針

学校規模が大きすぎると、小中学校の連携が難しくなるため学校規模は標準規模（学校あたり12学級以上18学級以下）が望ましいとされています。現状の学校規模での統廃合は、メリットよりもデメリットを引き起こす可能性が高くなります。また、地域拠点としての学校づくりのためにも、現時点では学校の統廃合は行いません。

（2）改修等の基本的な方針

①長寿命化の方針

施設の長寿命化を行っていく上で、適切な時期に維持管理・改修が必要となり、それらを実施することで施設の適正な保全を行い、可能な範囲で計画的に施設の長寿命化を図ります。

その際、施設のバリアフリー化についても、個別施設の状況や社会的要請を踏まえた対応を検討します。

②目標使用年数、改修周期の設定

築年数	校舎整備の方向性	
	築年数40年未満	築年数40年以上
20年目途	改修の実施（経年劣化対策）	—
40年目途	大規模改修の実施 （長寿命化対策、社会的要請への対応）	—
60年目途	改修の実施（経年劣化対策）	建替の検討（劣化状況の確認）
80年目途	建替の検討（劣化状況の確認）	—

5 長寿命化等の実施計画

(1) 改修等の優先順位付けと実施計画

施設名	【第1期】 優先的に実施	【第2期】 見直しの 可能性有	【第3期】 大幅な見直しの可能性有		
	2017～2021 年度 (H29～H33)	2022～2026 年度 (H34～H38)	2027～2031 年度 (H39～H43)	2032～2036 年度 (H44～H48)	2037～2039 年度 (H49～H51)
旭小学校 校舎					改修
体育館				改修	
穴師小学校 校舎			建替		
体育館					大規模改修
上條小学校 校舎		建替			
体育館					大規模改修
浜小学校 校舎		大規模改修			
体育館					大規模改修
条東小学校 校舎	大規模改修				改修
体育館				改修	
条南小学校 校舎	大規模改修				改修
体育館				改修	
楠小学校 校舎		大規模改修			
体育館					改修
戎小学校 校舎			改修		
体育館			改修		
誠風中学校 校舎				建替	
体育館					大規模改修
東陽中学校 校舎					建替
体育館			大規模改修		
小津中学校 校舎	大規模改修				改修
体育館					改修
教育支援センター		複合化			

【引用：泉大津市公共施設適正配置基本計画（平成29年策定）】

(2) 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果～維持・更新の課題と今後の方針

今後の学校施設の維持・更新コストは、長寿命化をしても過去5年間の投資的経費より増加することが見込まれます。児童生徒数が減少する中で施設の維持・更新費用が増加するという矛盾を抱えており、①施設保有のありかた、②維持・更新コストの削減及び財源確保は大きな課題となります。個々の学校施設の長寿命化（保全計画）だけでは限界があることから、財政制約ラインとコストとの乖離を埋めていくため、学校施設の配置や規模、運営面・活用面等に及び多面的な見直しが必要であり、適正化に向けた総合的な取組みの方針を明確にする必要があります。

(3) バリアフリー化

原則、校舎の建替や大規模改修の際にエレベーターを設置します。

また、下表の学校においては、斜行型段差解消機を設置します。ただし、他の学校においても、随時、支援の必要な児童生徒の在籍状況や建替・大規模改修の実施時期等を勘案し、斜行型段差解消機の設置を検討します。

斜行型段差解消機設置予定校

対象校	設置年度
誠風中学校	2023年度
東陽中学校	2023年度

6 長寿命化計画の継続的運用方針

(1) 情報基盤の整備と活用

本計画を効率的かつ効果的な施設整備を推進していくにあたり、学校施設の状況や改修履歴などをデータとして蓄積し、更新していきます。施設の実態を適切に把握することで、改修内容や時期などを総合的に判断し活用していきます。

(2) 推進体制等の整備

本計画は教育委員会が中心となり進めていきますが、泉大津市公共施設等総合管理計画等、市全体の計画と連携・調整を図ることとします。

(3) フォローアップ

本計画は、学校施設を維持させていくことを前提としたものであり、学校施設の改修・改築の優先順位を設定していくものです。

上位計画や各年度の予算編成の中で年次及び個別の事業費を精査するとともに、社会状況の変化、学校教育施設を取り巻く環境の変化、事業の進捗状況、他の公共施設の状況等を踏まえ、本計画は必要に応じ柔軟に見直しを行います。